



1976年11月  
秋期特別展案内

テーマ 発掘への招待 1  
—相模川流域の縄文時代—

○期間 11月5日～12月12日

市内岡崎上ノ入遺跡の発掘調査資料を中心として、相模川流域の縄文時代を展示します。

厳しい自然条件の中で生きた、原始の入々の生命力や、生活の知恵がどんなものであつたか、展示で、当時の人々の生活の一端に迫ってみました。

特別展に関連して次の行事が行なわれます。

○特別展講演会

11月21日(日) 午後1時～3時

講師 樋口清之先生(国学院大学教授)

テーマ 山野に食を求めて—縄文人の生活—

会場 1階講堂 入場自由

12月5日(日) 午後1時～2時30分

講師 日野一郎先生(平塚市文化財保護委員)

テーマ 相模川流域の発掘調査の現状と課題

会場 1階講堂 入場自由

○体験学習シリーズNO6

「土器を作ろう」縄文式土器を作ります。

日時 11月13・14日の2日間

… 午前10時～午後4時

場所 1階科学教室

参加申込み方法 11月7日まで往復ハガキか又は博物館受付けで。先着30名でしめ切。なお参加費として、500円当日徴収いたします。

○スライド映写会

11月7日(日)・27日(日) 午後2時半

会場 1階講堂 入場自由

上ノ入遺跡の発掘を中心としたスライドを映写いたします。なお2階ビデオ休憩コーナーでは、発掘作業中のビデオを上映いたします。

○特別展図録

1部300円 受付で発売

## 体験学習シリーズ Ⅵ 「土器を作ろう」より

博物館では毎月1回科学教室を利用して、自然のものを利用して作る「体験学習シリーズ」を行なっています。

先月は「土器を作ろう」というテーマで13・14日の2日間で縄文式土器を作ってみました。

古代人の生活の必需品であつた土器は、表面上何んの変哲もない「かわらけ」に見えます。この土器に隠されている、日常生活から生みだされた土器製作技術を、土器を作ることによつて知りたいと思います。

13日(土) 8皿皿で「土器製作から焼くまで」を映写 ⇨ 特別展示室に行き、出展してある実物の土器の色・形・文様などを細かく観察 ⇨ 自分で作りたい土器写真選び ⇨ 作る大きさの寸法を決める ⇨ 土をこねる ⇨ 輪積してだいたいの器形を作る

14日(日) 器形を作り上げる ⇨ 文様をつける ⇨ 最終的整形を行なう ⇨ 完成

2日間(実動9時間)の行程で、落後する方もなく、参加者全員土器を作り上げることができました。

今回使用した土は、岡崎上ノ入遺跡の土、吉沢のローム、須賀の川砂と若干の粘土をまぜ合わせたものです。粘土だけで作ると思う方が多いと思いますが、土をこねて粘り気のある土でしたら、土器は作れますので、身近にある土を調べて作ってみてはいかがでしょうか。おおかたの土器は土と文様をつける竹とヒモだけで作れます。



作るコツみたいなものは、1.土をよくねること。2.土は長く、太めの紐状にし、輪積すること。3.器壁は厚めに作り、後で削ること。4.整形はていねいにすること。以上の点に注意していただければたいの土器は作れますが、最終的には、物を作り上げるという意欲とか根気が絶対必要です。

参加なされた方々も、それぞれ苦心惨憺して作り上げられ、作り上つた時は、「家の宝物に」とおつしやる方もおられました。

この機会を通じ、少しでも古代人の生活の知恵の豊かさを知つていただけたらと思います。

### 参加者名

石原直子・中沢保夫・北村敏子・梯昭子・柴田美恵子・大野とく代・大貫令子・丸山裕子・関谷操堀美智子・井上千鶴子 (敬称略)

## — 屋外展示について —

### 縄文時代の住居復元

博物館北側の芝生に敷石住居が復元されています。

住居は岡崎上ノ入遺跡で発掘調査された堅穴住居で、石が敷かれていることから一般に敷石住居と原われています。柄鏡の形をしており、柄の部分が入り口と考えられます。大きさは直径5皿で、根府川石が約280個敷かれています。中から、炭化した柱、つぶれた土器、石鏝、凹石、すり石などが出ました。

ゆつくりご覧になつて下さい。

